

年 度 評 価 シ ー ト

課名 男女共同参画・人権政策課

施設の名称 静岡市女性会館	指定管理者名 特定非営利活動法人 男女共同参画フォーラムしずおか
<p>1 履行状況</p> <hr/> <p>(1) 目標達成</p> <p>ア 講座受講生の理解度 目標値 80%以上、実績値 96.9% (前年度 97.3%)、達成率 121% (前年度 122%)</p> <p>イ 新規利用者数 目標値 1,100 人以上、実績値 1,570 人 (前年度 1,284 人)、達成率 143% (前年度 117%) 【参考】平成 30 年度 (コロナ前) 実績値 1,211 人</p> <p>(2) 施設利用状況</p> <p>ア 平均稼働率 48.1%</p> <p>イ 開館日 334 日</p> <p>ウ 年間利用件数 7,236 件</p> <p>エ 年間利用者数 65,751 人</p> <p>(3) 人員配置状況</p> <p>正規職員 6 人、時間雇用職員 6 人、嘱託職員 6 人の総勢 18 人 時間雇用職員の退職に伴い新たに 2 人採用。相談室は健康上の理由での退職者や自己都合による退職者が続き、相談員の定着と採用に苦慮した。</p> <p>(4) 業務実施状況</p> <p>静岡市女性会館条例第 2 号に規定する各種事業について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。 主な事業と参加者数は以下のとおり。</p> <p>ア 講座企画運営事業</p> <p>事業計画書に掲載された事業に加えて静岡大学、清水第七中学への出前講座、「大そうじ大作戦プロから学ぶ掃除術」の講座を行い、全23講座を実施し、延べ 2,034人の参加があった。</p> <p>主要講座である第 20 期アイセル女性カレッジは、昨年 9 月の台風 15 号の被災があったことから市内在住の女性を対象に「防災分野における女性の人材育成」をテーマとしたことで、清水区民、防災役員、民生委員等すぐに学びを实践できる役割にある人からの申し込みが増える結果となった。</p> <p>新規利用者は 837 人、講座受講者の満足度は全体平均で 98.1%、理解度も全</p>	

体平均で 96.9%と非常に高かった。

出前講座以外にも「すきを見つけるアートワークショップ」「親子で学ぶはじめての生理」「おはなしくいんと親子で楽しむ絵本の扉」「赤ちゃんと一緒に産後ヨガ」など、親子で参加できる講座も多数実施し、幼少期から自然に女性会館を訪れる機会となるよう工夫した。

#### イ 団体活動支援事業

葵生涯学習センターと共催で行う団体活動発表会「アイセルわいわい祭り」は、コロナ前の規模に戻して全館での開催となった。参加者は1,165人と昨年の583人を大きく上回った。

#### ウ 情報収集・発信事業

メンターバンクでは、メンタリングを6件行った。交流事業は、カレッジ修了生の参加が多く、審議会の委員推薦や他機関の講座への登壇者照会など、メンターカレッジ修了生を中心とした人材紹介は漸増している。

情報紙「WAVE」は、全国の男女共同参画関連施設以外に女性会館事業の理解の一助となるよう地域包括支援センターや民生委員や児童委員などにも配布した。

図書コーナーでは、新規登録者数が298人（昨年度226人）貸出冊数は17,503冊で昨年度の17,384冊を上回った。貸出者数は5,245人（昨年度5,109人）、閲覧のみの来室を含む利用者数は11,900人（昨年度10,756人）となっており、いずれも昨年度より微増した。

11月に「女性に対する暴力根絶」、「児童虐待防止」の関連でハート形の巨大オブジェを制作し、1階図書コーナー横の壁面に展示した。

#### エ 相談事業

「女性のための総合相談」は、電話・面接相談を245日、法律相談を24日開設し、年間で1,706件の相談があり、昨年度の1,889件を若干下回ったが、法律相談は前年より7件、同行支援は3件増加した。

相談者は、40代から50代が相談全体の半数以上を占めている。相談内容を見ると、電話相談は、「家族・親族関係」「DV」「仕事・暮らし」という順で上位3位を占めている。面接相談は、約6割が「DV」に関するもので、「離婚・暴力」を加えると約9割を占める。法律相談は、半数が「離婚」に関するものだった。

新たに採用した相談員は1か月の新任相談員研修を実施し、その他にも勉強会やスーパービジョンなどで専門性の習得に努めた。加えて毎週の定例会では相談室全体でケースを共有し、相談員同士で相談対応のスキル向上を図った。

就職・転職・キャリア相談は年間33件、にじいろ電話相談は年間38件実施した。

#### オ 施設管理・運営

各部屋の稼働率は平均で48.1%（前年度47.2%）であり、利用者数は65,751人（前年度61,506人）と、前年比で若干回復したが、平常時と比べると低かった。

個別の修繕については、相談室の窓フィルム貼り工事、電話相談室の照明取替（LED化）を実施した。修繕6件、小破修繕18件、保守・点検・改善35件、衛生管理・掃除28件対応した。

**【検証・分析等】**

上記の5つの事業を有機的に連動させ、それぞれの機能が十分生かされるよう意識して行っている。

講座企画運営事業は、若い世代へのアウトリーチに注力しており、受講者の半数近くを10代が占めた。出前講座では、職員が講師を数多く務めたことで職員自身のスキルアップにつながった。

情報収集・発信事業は、様々な背景を抱えた人たちへの情報提供だけでなく、図書コーナーのレイアウト変更や寄贈された授乳室を活用したキッズスペースの設置など、居場所としての機能の充実を図っている。

相談事業は、若年層の利用促進を目的にガールズ電話相談の利用者を増やすためSNSによる広報を実施したが、利用者は数人に留まったため若年層への周知方法は課題である。

施設については、開館から30年以上過ぎ備品や設備の老朽化が目立つため、日々のメンテナンスが欠かせない。

**【確認結果】**

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

**2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）**

**【具体的な意見・要望とその対応状況】**

（0歳児とその母親）

意見等：図書コーナーオープンスペースすぎるためもう少し細分化してほしい。

意見等：流行っている本や絵本が知りたい。

意見等：定期的にお話会を開催してほしい。

対 応：キッズスペースのレイアウト・企画内容、図書コーナー展示を変更する。

（大そうじ大作戦）

意見等：改めて掃除した際に汚れがたまっている。

意見等：パパと子どものお掃除講座があったらよい。

対 応：来年度父子で参加できる講座を開催検討。食工場の掃除方法等を検討。

**【検証・分析等】**

女性会館では、利用者からの意見・要望を吸い上げるため、定期的に利用者トークサロンを実施しており、複合施設である葵生涯学習センターと情報共有しながら、意見・要望を反映した施設管理を行っている。令和5年度は0歳児とその母親、大そうじ大作戦の受講者に焦点を当て、利用者トークサロンを通じて意見・要望を聴取し、適切に対応した。

**【確認結果】**

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

**3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価**

（1）利用者満足度調査

目 的：女性会館の講座参加者の属性、地域を把握する。

対象者：講座やキャリア相談への参加者 延べ2,034人

調査方法：実地（講座やキャリア相談後）

調査結果：講座受講者に対して実施した講座満足度調査では、回答者1,853人のうち

98.1%が満足と回答する結果となった。

**【検証・分析等】**

講座満足度調査の満足度は98.1%であり、良好な評価を得ている。

**【確認結果】**

○：調査の結果が概ね良好である。

(2) 市民アンケート

**【確認結果】**

－：未実施

(3) その他の調査

目的：女性会館の講座参加者の属性、地域及び図書コーナーや相談事業の認知度を把握する。

対象者：講座やキャリア相談への参加者のうち共通の質問に回答した人延べ1,093人  
調査方法：実地（講座やキャリア相談後）

調査結果：講座参加者の年代は10代が最も多く、次いで40代、50代の順に多い。

女性会館が実施している相談事業の中で知っているものを尋ねたところ、女性会館内で行った事業では、「女性のための総合相談」が43.6%（前年度38.5%）と高くなっている。その他の事業についても全事業で前年度より高くなっている。

図書コーナーを知っているのは、女性会館で実施した事業では、「知っている」が7割以上を占めている。

**【検証・分析等】**

両アンケートともに女性会館で実施した事業の認知度が増加している。

**【確認結果】**

○：調査の結果が概ね良好である。

4 指定管理者の経理状況の評価

**【収支状況】**

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

**【検証・分析等】**

管理雑費で多少支出超過はあるが、それ以外支出超過もなく、執行されている。

**【確認結果】**

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

指定管理業務全般について、業務仕様書や事業計画書に従い良好に実施されている。

事業全般については、若年層に向けた事業を増やしているという工夫がみられ、新規利用者数が1,570人、講座受講生の理解度96.9%が目標より大幅に上回っているという点が高く評価できる。

引き続き、静岡市女性会館のノウハウや全国女性会館との情報共有といった強みを活かした施設運営をし、外部への周知を期待したい。

**【評価結果】**

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。